

研究主題

「なかまとの対話・経験を豊かに・楽しい学び」
～プロジェクト型学習を通して～

1 テーマ設定の理由

本校は昨年度、自分の思いや考えを伝え、まわりの人の考えや思いを聞いて理解することで、さらに自分の考えを深め次に学びたいことへの意欲につなげようと、「なかまとの対話を大切にし、学び合う子どもの育成」として、学校努力点研究に取り組んできた。

★効果のあったこと

- ・経験をともに、「話したい」「伝えたい」という思いを持つ子が多くいた。
- ・話型を習得し、自分の言葉で伝えようとする姿が見られるようになった。
- ・グループでの対話活動を重ねることで、発言することへの抵抗感が減ってきた。

★課題として考えられること

(昨年度は各学年・学級で教科・単元を決め、それぞれの教科・単元で実践を行った。教科学習では身に付けさせたい力が明確で、それまでの知識や経験が話し合いの場での差となり、十分に話し合い活動が行えないこともあった。)

- ・子どもの気付きから課題を見付けられるように変容させていくことが必要。

★本校の子どもたちの様子

- ・経験が足りない
→社会とのつながり（公的施設、企業、地域の大人、他学年児童など）を増やす
- ・素直で素朴→新しい発見に対する素直な反応が見込まれる
- ・自信がない→自分の疑問・課題を解決することで、「わかる」「楽しい」を味わい、自己肯定感を高める

子どもたちが主体の学習を進めるためには、「子どもたちの気付きや経験から課題を見付けること」が大きなポイントになることは、これまでの低学年の実践(1年生活科、2年国語「夏の体験、好きなものことなど)からも明らかである。

そこで本年度は、子どもたちが自分の興味関心を追求していくことができるプロジェクト型学習に取り入れたい。総合的な学習の時間や生活科の学習の中で、プロジェクト型の学習を進めることで、より子どもたちが「わかる!」「楽しい!」と感じる主体的な学習を進めることができると考える。

2 研究の方法

(1) 本校の子どもたちに身に付けさせたい力

表現する力

- ・相手にわかりやすく伝える
- ・適切な方法を選んで表現する

協力する力

- ・友達の話を聞いて受け入れることができる
- ・友達と協力して課題解決をすることができる

見付ける力 〈本年度重点目標〉

- ・生活や学習の中から疑問を見付けることができる
- ・課題を解決する方法を見付けることができる

計画を立てる力

- ・見通しやゴールをもつことができる
- ・計画を立てることができる
- ・振り返りを行い、計画を見直ししながら進めることができる

自分に生かす力

- ・学んだことを生活や学習に生かすことができる
- ・社会の一員として考え、行動することができる
- ・学ぶ楽しさを知ることができる

(2) 実現するための手立て

〈プロジェクト型学習の流れ〉

1	触れる・体験する	経験を増やす活動を行う ★「疑問を見付ける力」を育てるための手立て
2	課題・ゴールを決める	経験して気付いたことから、課題を決める
3	計画を立て、 調べる・探求する	課題解決までの計画を立てる 解決方法を友達と協力して探る ★「課題解決方法を見付ける力」を育てるための手立て
4	振り返る	課題解決について話し合う
5	発表する	成果を他者に伝える

総合的な学習の時間や生活科で、子どもが自ら問いを立てて探究し、教師がその学びをサポートしていく中で、「見付ける力」を育てるための手立てを発達段階や学年の様子に合わせて検討していく。

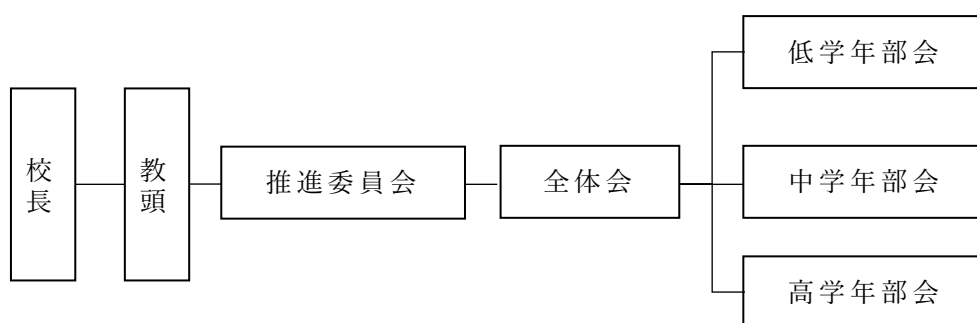
(3) 実践の方法と評価

- 各学年でテーマとなる課題を設定し、実践時期（2学期以降が望ましい）を検討する。学年同一単元で行い、その単元内で各学級の公開授業を行う。（例：1組導入、2組展開、3組振り返り）
- 全授業を公開とし、授業の流れがわかる指導案などを作成する。
- 低・中・高学年部会で検討会を開き実践を進める。学年の最初の公開授業前に事前検討会を、学年の最後の公開授業後に事後検討会を行う。公開授業の授業日は原則として、低学年は木曜3限、中学年火曜6限、高学年は金曜6限に設定する。

- 公開授業を行う一週間前に全職員に掲示板等で周知、前日までには指導案を配付する。
- 保護者には学校だより、学年だよりで随時紹介する。
- 保護者アンケート、児童アンケート、教職員アンケートを行い、実践方法や手立てが有効であったかを評価する。

3 研究の組織

研究を推進するために、以下のような研究組織を構成する。具体的な研究推進にあたって、教務主任と努力点推進委員で推進委員会を組織し、実践を進めていく。



4 年間計画

学期	月	日	曜	会名	内容
1	4			全体会	研究計画の周知
				学年部会	テーマ・実践時期の検討
	5			推進委員会	各学年のテーマ確認・内容検討
	6	※		学年部会	実践に向けての準備・確認
2	8	研究推進校への視察、資料の収集など			
				全体会	実践内容についての報告 意見交流
	11			推進委員会	「最終まとめ」について検討
3	1			推進委員会	本年度のまとめ、次年度への計画
	2			全体会	最終報告会
		※		推進委員会	次年度研究計画の確認

※は未定

参考 名古屋市立矢田小学校 HP <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/yada-e/>
モデル校→2019年令和元年度実践報告

※各学年のテーマなども参考になると思います。